

はばプラⅡ 国語科「つかむ」過程の基本的な流れ

学びを深める指導・支援の重要ポイント

【必要感のある言語活動】

※単元の課題の立て方

○どのような資質・能力を、どのような言語活動を通して身に付けさせるかを明確にする。

【 A 】をして（～ができるように）、
【 B 】をする。

A → (1) 指導事項から身に付けさせたい資質・能力を明確にする。

B → (2) 言語活動例を参考に児童生徒の実態に合った言語活動を設定する。

※学習指導要領解説国語編付録4「系統表」を参照

〈例〉

◆「事例を挙げて相手に分かりやすく伝えるように、学校生活の楽しさをスピーチしよう。」

◆「図表やグラフを効果的に使って、自分の考えを伝える環境ポスターを作ろう。」

◆「登場人物の設定や物語の展開の仕方に着目して、『故郷』の魅力を伝え合おう。」

○児童生徒によっては、活動することを目的と捉えてしまう場合がある。教師は、活動を通してどのような資質・能力を身に付けさせるのかを改めて確認する必要がある。

【単位時間をつなげる見通し】

○単元構想を基に、単元の課題解決のために必要なことを児童生徒に発問し、出された言葉をつなげて見通しをもたせる。

〈児童生徒から言葉を引き出す発問の例〉

T:「この説明文にはどんな特徴がありますか？」

S:「図表や写真が多く載っていると思います。」

T:「図表や写真を載せる意味はあるのでしょうか？」

.....

T:「インタビューをする時に注意することは何ですか？」

S:「相手に聞き取りやすい声の大きさと速さです。」

T:「今回は、来月に行われる運動会の紹介をします。」

S:「だれにどんなふうに紹介するかな？」...

【「つかむ」過程のまとめ・振り返り】

○単元の課題と学習の見通しから、「…することが楽しみだ」「…ができるかどうか不安だけど、頑張ってみよう」といった、課題解決に向けての記述や発言をさせることで、「追究する」過程の学習への意欲付けを図る。

基本的な流れ

1 教材文やモデル等と出会い、単元の課題を把握する。

●既習事項や実生活での体験等を想起させたり、映像や写真など視覚教材を利用したりして、本単元の学習への興味・関心を高めさせる。

●教科書等の教材文や表現活動を提示する。

●単元の課題を把握させる。

【単元の課題】

〈必要感のある言語活動〉

●単元を通して、表現物を作成したり、発表会をしたりする場合は、ゴールの姿をモデルとして示し、イメージさせる。

2 本時のめあてをつかむ。

●本時は、単元の課題を理解し、どのような学習をしていくか見通しをもつことがめあてであることを伝える。

【めあて】

3 単元全体の学習の見通しをもつ。



●児童生徒とやりとりしながら、既習事項を想起させ、単元の課題を解決するために必要なことを考えさせる。

●学習の大体の流れをつかませ、見通しをもたせる。(学習内容によっては、学習計画表等を提示する場合もある。)

4 本時のまとめ・振り返りをする。

●単元の課題と学習の見通しについて、全体で確認させる。

●課題に対する思いや意気込み等を、記述や発言するように促す。

単位時間の振り返り

個別最適な学びに関する学習活動

協働的な学びに関する学習活動

1人1台端末の活用

〈例:児童生徒の興味・関心を高めるためのICT活用〉

- ・教科書や図書資料などの挿絵や写真を拡大して提示する。
- ・今までの成果物(スピーチやプレゼンテーションの映像やポスター、リーフレットの画像など)を提示する。
- ・お手本を比較できるような映像や画像を提示する。
- ・単元の課題に関して、問題提起となるようなニュースや新聞記事などを提示する。

【表現】

○文章作成ソフト等で、単元の課題についての自分の考えや疑問、調べたいことを入力、電子ファイルへ保存する。

【学習データの蓄積】

○教師用端末等に単元導入時の記録を送信する。
→「まとめる」過程で提示し比較することで、自分の考えにどのような変化があったのか、どのように学習を進めたのかを確認できる。

【学習データの活用】

○今までの成果物を記録したデータ等の学習ログを活用し、本単元に関わる既習事項を想起することで、単元の課題と見通しを明確にできる。

【表現】

○文章作成ソフト等で、個々の振り返りを入力、電子ファイルへ保存する。

【学習データの蓄積】

○教師用端末等に個々の振り返りを送信する。
→次時の学習への見通しを明確にもつことができる。
→自己の学びの確認ができる。

【学校の壁を越えた学習】

○それぞれの学校で、共通の単元の課題をもって学習を進め共有することも可能である。
○地域と連携しての情報の収集、成果物の発信などが考えられる。

【発表や話し合い】

○大型提示装置や端末で、児童生徒の考えを提示し、気付いたことを発表したり、共通点や相違点を整理したりする。
→複数の意見や考えを可視化して共有化・焦点化できる。

〈ICT活用の視点〉

単元の重点とした指導事項(資質・能力)を身に付けるために、ICTをどの場面で、どのように活用するとより効果的か、教師が見通しをもつことが大切です。

教師の指導・支援

大型提示装置・教師用端末の活用

○本単元に関連する視覚資料やゴールの姿がイメージできるようなモデル等を大型提示装置等で提示する。

〈留意事項〉

※大きく提示するタイミングや映像を指し示しながら発問、指示、説明をするタイミングを十分留意する必要がある。

○教師用端末等で学習状況を把握する。

○教師用端末に送信された児童生徒が考えたキーワードや共有した学習の大体の見通しを大型提示装置に表示する。

〈例〉

・マーキング、並び替え、拡大

○教師用端末に送信された児童生徒の振り返りを大型提示装置等で紹介し、比較したり共有したりする。

はばプラⅡ 国語科「追究する」過程の基本的な流れ

学びを深める指導・支援の重要ポイント

【めあての設定】

○単元の課題の解決に向かうステップとして、単位時間のつながりを意識させながら、本時で解決すべきことや本時の大まかな学習の流れを明確にさせる。

〈例〉【単元の課題】

説得力のある根拠を使って、自分の意見を伝えよう！

- ①:モデル文を読み、説得力のある文章を書くポイントを考える。
- ②:集めた情報から説得力のある根拠を探す。
- ③:自分の考えと根拠のつながりを検討する。
- ④:テーマに沿って意見文を書く。
- ⑤:互いの意見文を読み合う。(○数字は単位時間)

【効果的な交流活動】

○交流活動の目的と観点を明確にさせる。

【目的】(何のための交流活動か?)

- 例
- ・自分の考えを確認する
 - ・互いの考えを認め合う
 - ・考えを広げたり深めたりする
 - ・考えを一つにまとめる
 - ・よりよい考えを生み出す

【観点】(どんな視点で交流するのか?)

- ・身に付けさせたい資質・能力を基にする。
- ・児童生徒の言葉を使って提示する。

○発表の順番を決めたり、役割を分担したりするなど、方法を具体的に示すことで、多くの児童生徒に発表等の機会を与える。

○目的に応じて、色ペンや付箋紙、ミニボードなどを活用する。

○発表の際、「他の班との共通点(相違点)は何ですか。」「どの班の考えと似ていますか。」「全ての班の主張をまとめるとどうなりますか。」等、発問を焦点化する。

【「追究する」過程のまとめ・振り返り】

○振り返りの内容は、指導事項に沿った観点を提示する。児童生徒の実態に応じて、記述・発言させる。

〈振り返りの観点の例〉

- a 何を学んだのか(何ができるようになったか)
- b どのように学んだのか(どうしたらできたのか)
- c 新たな疑問やさらに学習したいこと

※観点ごとにまとめさせても、自由にまとめさせてもよい。

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- ノートやワークシートの記述等から、前時までに学んだことを想起させる。
- 学習計画表等を活用するなど、現段階の学習状況と単元における本時の位置付けを確認させる。

【めあて】

2 課題を追究するために個で考える。

- 本時のねらいを明確にした上で、思考を促す発問を行い、児童生徒から多様な考えを引き出す。
- 個で考える時間を確保し、自分の考えをもたせる。

【多様な考えを引き出すポイント】

3 グループや全体で、課題を追究するための考えを確認し合い、新たな気付きをもつ。

- 必要に応じて、ペアや少人数での交流活動を設定し、交流活動の目的や方法、交流の観点等を確認させる。
- 観点を基に、互いの意見を交流させ、考えに広がりや深まりをもたせる。
- 各グループで出された話題や考えの共通点や相違点を全体で確認し、課題の解決に迫らせる。



4 本時のまとめ・振り返りをする。

- 板書やノート、ワークシートを基に本時の学習を振り返らせ、本時のめあてと照らし合わせて、自分の言葉でまとめさせる。
- ペアやグループ、全体で、発表するように促す。
- 今までに学んだこととつなげさせたり、新たに学んだことを自覚させたりしながら、単元の課題の解決に近付いていることに気付かせ、称賛する。

単位時間の振り返り

個別最適な学びに関わる学習活動

協働的な学びに関わる学習活動

1人1台端末の活用

【学習データの再生】

○電子ファイルにある前時までの学習内容・振り返りを確認する。
→学習状況の把握や定着、単元全体における本時の位置づけを確認できる。

- 〈留意事項〉
- ・初歩の段階では、サイトを指定。
 - ・出典元を記録させる。
 - ・情報の信憑性を学ぶ。(→デジタル・アーカイブの活用)

【調査活動】

○ネットサービスを使った情報を収集する。
○電子メール等を使って聞き取りや質問をする。
○電子ファイルへ記録・保存する。
○端末等の写真機能や録画機能を使い、記録する。

- 〈例〉
- ・教材文に関連する文章の作者や筆者などについて検索・収集する。
 - ・紀行文について、人物が旅した経路を調べ、その地域の特色や情景、心情をまとめる。等

【表現】

○自分の考えや調べたことを文書作成ソフト等で入力したり、プレゼンを作成したり、スピーチ等の発表の様子を動画で撮影したりしたものを電子ファイルに記録・保存する。

【協働制作】

〈ICT活用の視点〉

追究する過程では、児童生徒の思考が深まるよう、成果物を視覚的かつ焦点化して提示することや効果的に修正できるようにすることが大切です。その際、指導事項に沿った観点に基づいて、助言する必要があります。

【協働での意見整理】

○保存されたデータを繰り返し確認し、端末、文書作成ソフトのコメント機能を活用して、アドバイスをしたり受けたりする。
○グループ内の意見を書き込み、全体で共有する。
→何度も再生することができるので、じっくり考えることができる。
→具体的な改善点を共有、焦点化できる

〈例〉

- ・録画した自分や友だちのスピーチ等の様子を、観点に沿ってアドバイスし合い、よりよいものにする。
- ・コメント機能等を用いて入力されたコメントに対して、観点に沿って検討し、校閲機能を用いて文章を完成させる。

【学習データの蓄積】

○端末等へ振り返りを記録する。
→次時の学習への見通しを明確に持てる。
→他者の様々な学びに対する認識を捉えることができる。
→自己の学びの確認ができる。

教師の指導・支援

大型提示装置・教師用端末の活用

○大型提示装置等で、単元の課題や学習計画、前時の振り返り(ワークシートやノート等)を提示する。

○大型提示装置等で、身に付けさせたいスキルについて、映像や画像を提示する。

〈例:分かりやすく説明するためのICTの活用〉

- ・筆の動きの実演
- ・筆順や成り立ちの提示
- ・表現物作成の流れの提示
- ・説明する手順の例示 等

○大型提示装置等で、交流活動の観点を児童生徒作品を提示したり、参考となるアドバイスをしたり共有したりする。

〈例〉

- ・色分け、マーキング、並び替え、拡大、矢印を引く、線で結ぶ 等

○教師用端末に送信された児童生徒の振り返りを大型提示装置等に紹介し、比較したり共有したりする。

はばプラⅡ 国語科「まとめる」過程の基本的な流れ

学びを深める指導・支援の重要ポイント

【学びの自覚】

- 単元を通して身に付けさせたい資質・能力を基に、具体的な観点を提示して、振り返らせることが大切である。特に、成果物を作成した場合、見た目の善し悪しで自己・相互評価をしないように注意する。
- ②では、「自分は何ができていて、何ができていないのか」に気付かせ、言葉に対して意識的に着目できるようにする。
- ③では、各単位時間の振り返りの記述等を参考に、児童生徒の言葉で記述させ、全体で「何をどのように学んだのか」を確認させる。

【学んだことの一般化】

- 単元を通して学んだことが、他の場面でも活用できることを自覚させる。

〈一般化の例〉

- ・今度、理科の自由研究のレポートをまとめるときは、複数の事例を挙げてみよう。
- ・宮沢賢治の他の作品も「たとえ」が使われているかな。図書館で探して、読んでみたいな。
- ・これから面接があるけれど、自分の思いがしっかり伝わっているかどうか、相手の反応を見ながら受け答えをしないとイケないな。

- 児童生徒の発言に対して、「もう少し具体的な場面をイメージしてみましょう。」「どうしてその場面で見えると思ったのですか。」等の問い掛けを行い、さらに考えを引き出すことで一般化につなげさせる。
- 同じような考えの児童生徒に聞いたり、全体に投げ掛けたり、分かりやすい言葉に置き換えさせたりする。

【単元全体の振り返り】

- 単位時間の積み重ねによって単元の課題が解決できたという視点をもって、自分の学びや成長を自覚させるようにする。
- 自分の考えを形成したり、友達と伝え合ったり、新しい考えを生み出したりする言葉のよさを意識させ、児童生徒の言語感覚を磨いていくようにする。

基本的な流れ

1 本時のめあてをつかむ。

- 本時は、単元全体を振り返ることがめあてであることを伝える。
- 単元の課題を解決するために、今まで取り組んできた学習について振り返らせる。

【めあて】

2 単元で学んだことを確認する。

- 今まで学習してきたことを基に、
 - ①自分のノートや成果物、各単位時間の振り返りの記述等を確認させることで、学ぶ前と後との変容を自覚させる。
 - ②互いのノートや成果物等について、それぞれのよさを伝え合う交流活動を行うことで、自分のよい点や課題点を再認識させる。
 - ③今までの学習を振り返らせ、「どのように学び、何ができるようになったか」について発表させ、ポイントを板書し、全体で共有させる。

3 学んだことを一般化して理解する。

- 学んだことが日常生活や他教科でどのように活用できるのか、具体的にイメージさせる。
- イメージした場面を全体で確認し合い、学びの広がりを実感させるとともに、新たな学びへの意欲につなげさせる。

4 単元全体の振り返りをする。

- 単元全体を通して、学んだこと（成果と課題）や感じたことを自分の言葉でまとめさせる。（全体で共有させる場があってもよい。）

単元全体の振り返り

個別最適な学びに関わる学習活動

協働的な学びに関わる学習活動

1人1台端末の活用

- 【学習データの再生】
 - 電子ファイルにある前時までの学習内容・振り返りを確認する。
 - 学習状況の把握や定着、単元全体における本時の位置づけを確認できる。

- 【表現】【発表】 ※発信
 - 端末等で作成した文章やプレゼン、保存した資料等を使って発表する。
 - 根拠や事象の関連を明確にできるとともに、表現力の育成につなげることができる。

- 【思考を深める学習】
 - 端末等を用いて、学習の過程を振り返る。
 - 端末等を用いて、自分の成果物でアドバイス前後で改善した点、自分と他の成果物の共通点や相違点等について考える。
 - 学ぶ前と後の変容、自身のよい点や改善点が明確になる。
 - 何がどのようにできるようになったかのかが分かりやすくなる。

- 【学校の壁を越えた学習】
 - それぞれの学校で追究した成果を発表しあうことも可能である。

- 〈例〉
 - ・スピーチや話し合いの様子やプレゼンのスライドを繰り返し再生し、よさに触れる。
 - ・成果物を並べて表示し、違いを明確にして、伝える効果を考える。

- 【協働での意見整理】
 - 端末から個々の学びを教師に送信する。
 - 大型提示装置や端末等で児童生徒の学びを提示し、他と比較しながら、自分の学びを深める。
 - 複数の意見・考えを可視化して、共有、焦点化できる。
 - 多くの児童生徒の考えを基に、新たな学びの意欲につなげる。

- 【個に応じる学習】【家庭学習】
 - 言葉の知識に関する学習では、端末等を用いて、習熟の程度等に応じた学習も可能である。

- 【表現】
 - 文章作成ソフトで、単元全体のまとめや振り返りを入力・保存する。
 - 教師用端末等に送信する。

- 【学習データの蓄積】
 - 端末等へ振り返りを記録する。
 - 単元全体を通しての自己の学びの確認できるとともに、次の学習への意欲の向上が図れる。

- 〈ICT活用の視点〉
 - まとめる過程では、本単元の学びが今後の学習にどのように生かせるかを見通して、成果物や振り返りのデータを計画的に蓄積していくことが大切となります。

教師の指導・支援

大型提示装置・教師用端末の活用

- 大型提示装置等で、単元の課題や学習計画、前時の振り返り(ワークシートやノート等)を提示する。

- まとめる学習として、本時の学習に関連する視覚資料や児童生徒が作成した成果物等を大型提示装置に表示する。

- 教師用端末等で学習状況を把握する。

- 教師用端末に送信された児童生徒が考えたキーワード、一般化できるような場面を大型提示装置に表示・整理する。

- 〈例〉
 - ・マーキング、並び替え、矢印を引く、線で結ぶ、整理する 等

- 教師用端末に送信された児童生徒の単元全体の振り返りを大型提示装置等で紹介し、整理・分類したり、共有したりする。